

知ってるようで知らない マンガのQ&A

きゅっきゅぽんさんに
教えてもらいました!

私たちの身近にあるマンガ。物語の内容や登場人物のことはよく知っていても、それを描いているマンガ家さんについて、よく知らない人が多いと思います。ここではベールに包まれたマンガ家の実態をきゅっきゅぽんさんに伺います。

Q. 噂どおり、生活は不規則なんですか?

Question 1

A. 世間のイメージよりは、規則正しい生活を送っています。仕事柄、決まりのない環境の中で生活しているので、自分でルールを決めたり、時間を意識して過ごすようにしています。締切の前など、時々守れない時もありますけどね(笑)

Q. マンガ家さんに休日はありますか?

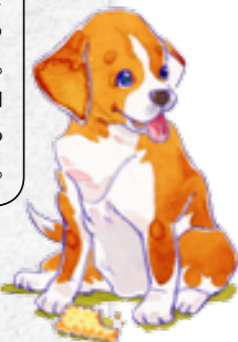
Question 2

A. 個人差ありますが私の場合は、休みはないです。そうはいつでも自由勤務なので好きときに外出するんですが、遊んでいる時でも何かいい「ひらめき」があれば、その場で絵を描いたりしているので1日休みっていう日はありません。

Q. ファンレターは読んでいますか?

Question 3

A. 全てに返信はできませんが、ファンレターやSNSに寄せられるメッセージは全て読んでいます。皆さんからの言葉は「頑張るパロメーター!」と言っても過言ではありません。本当に感謝しています。



↑お盆や正月時期など、季節の節目での帰省中にもマンガ執筆にいそむきゅっきゅぽんさん。

きゅっきゅぽんさん

福智町出身。平成24年に読切マンガ「タキさんちのスパイ」で小学館新人コミック大賞入選を果たしプロデビュー。多数の読切を発表し平成28年に「星間ブリッジ」で連載デビュー。前作の好評を受け今年9月から2作目の連載「Bowling! ボウイング」が開始。多彩な才能が集まるゲッサンの中でも異彩を放つ唯一無二の作風で注目されている。

福智町で生まれ育ったマンガ家・きゅっきゅぽん。多彩な才能ひしめく世界でただひたすら夢を描き続ける1人の作家の物語を追います。



決意込めた大告白が運命を分ける大転機に
大学では日本画を学ぶ傍ら本格的にマンガ執筆を開始。30ページ描くことすら困難とされるマンガをなんとか描き上げ、出版社へ持ち込み投稿しますが、「太い線が少女マンガ向きじゃない。絵が独特過ぎる」と、願う結果を出せない日々が続きます。気づけば大学3年生。友人が就職活動を始める中、更に不安もかき立てられます。そこで自分の決意を固めるため、当時執筆中の作品を手にとり、初めて両親に「マンガ家になりたい」と打ち明けたといいます。両親からは強い反対を受けることはありませんでしたが「お金を払って、また



↑表情描写にこだわる所も実感を込める工夫のひとつ。

会いたいキャラクターじゃない」と厳しい感想が向けられました。その言葉の意味を考え抜いた結果「無理に物語を面白くするよりも、誰もがリアルに感じる、実感のこもったマンガを書こう」と決意。今までの方針を大きく変える転機となりました。

10年の思いを託したマンガで切り開いた自らが進む道

そして描き上げた実感重視のマンガを持ち込んだのは、大手出版社「小学館」。読み終えた編集者から「古くさい絵が逆に新しい。弱みは強みでもある」と評価を受け、人気作家を多数生み出した新人マンガ賞「小学館新人コミック大賞」の少年部門に応募しました。審査員はマンガ界の巨匠たちが名を連ねます。大人気作「名探偵コナン」の青山剛昌先生からも「とにかく抜群に絵が上手い!!」とお墨付きを受け、大学4年生のときに堂々の入選。必死に追いかけてきた「マンガ家」という夢に一步踏み出した瞬間でした。

特集 2019 11 7 福智 FUKUCHI

Gペンと描く夢



「鬼才・きゅっきゅぽん物語」はじまりの、はじまり
線は太く、そして力強い——でもどこか柔らかさが残る絵のタッチで多くの人を魅了する福智町出身のマンガ家・きゅっきゅぽんさん。ある一人の鬼才が歩んできた物語とは、どのようなものなのでしょうか。
両親ともに美術教諭の家庭に生まれ、幼い頃から絵に親しみながら育ったきゅっきゅぽんさん。家では好きな絵を描くか、母親の希望で始めたバイオリンの練習をしながら幼少期を過ごします。漠然と絵を描ける仕事をしたいと思っていたものの、具体的に想像できないまま月日は流れました。そして中学2年生のとき、小山ゆう先生の代表作「お〜い! 龍馬」と出会います。「マンガでこんなに人の心を動かせるんだ!」と、大きな衝撃を受け、マンガ家を目指すようになったきゅっきゅぽんさん。しかし、家族には夢を打ち明けられないまま東京の美大に進学しました。

←小学校高学年のときに初めて描いた猫のマンガ。ペンネームも飼っていた野良猫の名前が由来。